

# サステナビリティの視点を 生かした授業をどうつくるか

架空の村のストーリーで考える

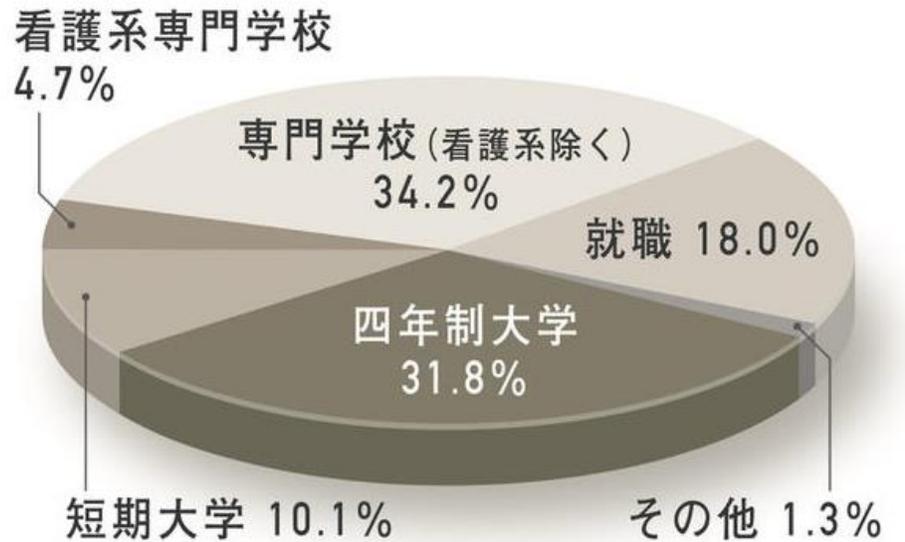
埼玉県立飯能高校 蘆名伸明

# 学校紹介 埼玉県立飯能高校

■全日制普通科

■2023年に飯能南高校と統合し，新校となった。

■卒業後の進路は多様。



〈R4・5年度の2年間の進路状況〉

※今回は，3年次の選択科目  
「政治・経済」（2クラス）  
での実践を紹介。

# 授業の方向性

- サステナブルな社会を作る上で、貧富の格差の是正、再分配の問題は欠かせない。
- 簡単に解決することはできないが、
  - a. 経済学や倫理学を使うことで解決へ向かえるという希望をもつ。
    - ・ 全員が利己心にもとづいて行動しても解決できるようなしくみの設計ができる。
    - ・ 各個人の利他性の涵養も必要。
  - b. 解決に向けて行動ができるようになってほしい。

# 授業タイトル：豊かな社会をつくる

## 【導入】

前単元で国民所得・経済成長を扱った。

→GDPを増やす（たくさん生産する）

GDIを増やす（たくさん稼ぐ）

問い：それで豊かな社会といえるか？

持続可能な社会

→再分配の問題へ

# 架空の村を題材に、ストーリーで考える

## 質問①：「センの笛」

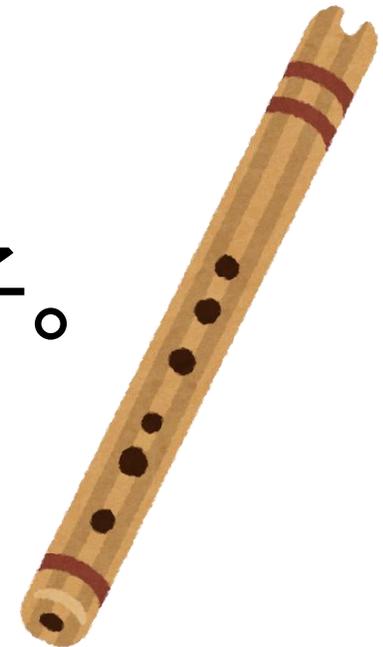
■あなたは、ある村の住民（大人）です。村に1つだけある笛を3人の子供のうちの誰かにプレゼントすることになりました。

Aさん：一番貧乏な子。

Bさん：一番笛を吹くのが上手い子。

Cさん：その笛を作った子。

だれにあげるべきでしょうか。



■Aさんにあげるべきだ：**平等主義**

(経済格差を減らすべきだという立場)

■Bさんにあげるべきだ：**功利主義**

(社会全体の幸福を増やすべきだという立場)

■Cさんにあげるべきだ：**リバタリアニズム**

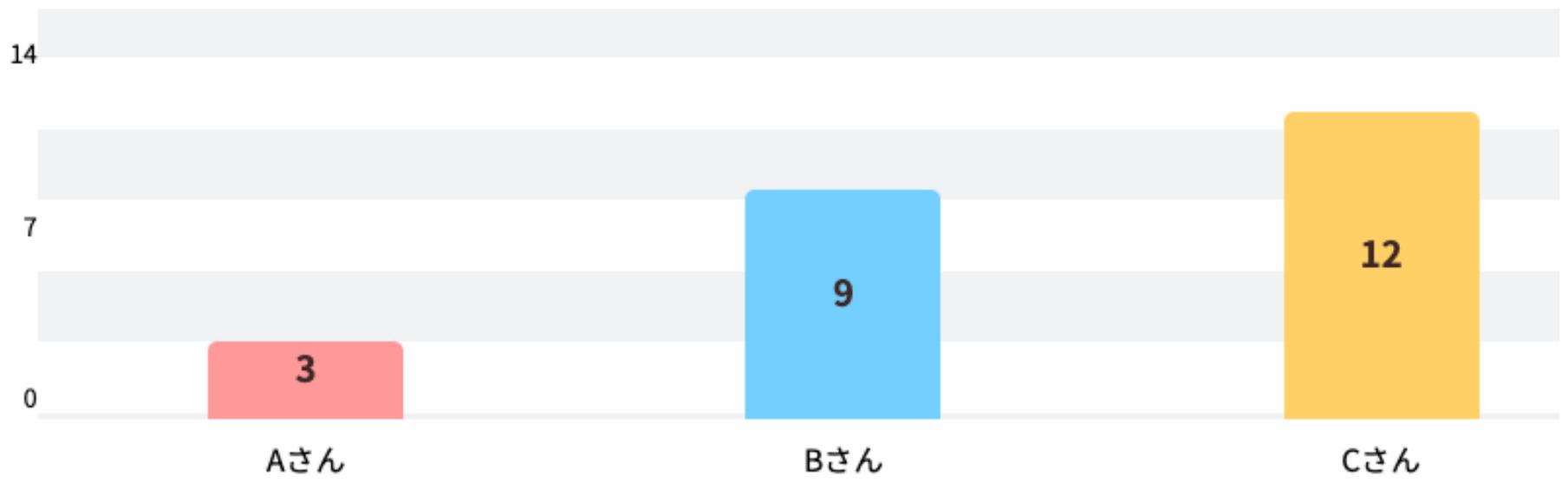
(個人の権利と自由を重視する立場)

★抽象的な理論だけを考えれば、どれもそれぞれに一理ある。

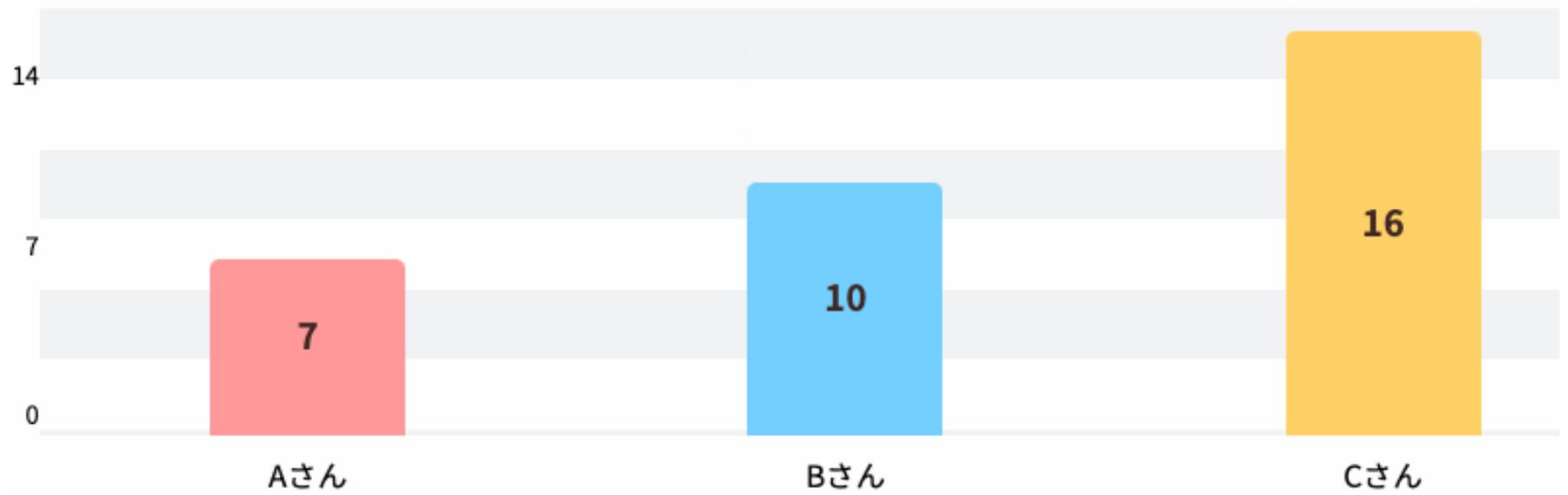
# 生徒が選んだのは・・・

リバタリアンが多い

1組



2組



# 生徒の意見

|   |   |
|---|---|
| A | <ul style="list-style-type: none"><li>・貧乏な子は他の二人よりも楽しいことをできるのが少ないため笛を渡し楽しんでほしいから。</li><li>・可哀想だから。笛ふくのうまくなれば、Bさんと友達になれそう！！！！</li></ul>  |
| B | <ul style="list-style-type: none"><li>・1番笛を有効活用できるから。</li><li>・それを聞く周りにもいい影響があるから。</li><li>・実力主義だから。</li><li>・笛は吹くためのものであるため、笛を吹くのが上手いBさんにあげることによって一番使いこなすことができると思ったから。</li></ul>   |
| C | <ul style="list-style-type: none"><li>・作った子が貰うべき。</li><li>・笛を作った子に所有権があるからCさんがもらうのは当たり前のことである。</li><li>・Aさんにあげたい気持ちはあるが、Aさんは貧乏なだけでいじめられてしまう可能性もあり、Aさんが笛をもらったことによって更にいじめの対象とされてしまう可能性があると思い、Cさんに笛をプレゼントするのが、一番いじめを防げるのではないかと思った。</li></ul> |

# 状況・質問の仕方の変化による影響を考える

松島齊『サステナビリティの経済哲学』（p.29～30）

住民は無関心であり，しかも徹底して利己的であるとしよう。このままでは，AとBとCの誰がふさわしいかを尋ねても，誰もちゃんと答えてくれない。……質問に答えてくれたならお金をあげるとするのだ。ならば住民は積極的に質問に答えるようになるだろう。……「他の住民の平均的な意見とは差のある意見を述べている住人には，獲得金額をその差に応じて引き下げる」というルールを設定してみよう。今度は，住民皆が一様にエコひいきしている子ども（ここではB）と答える事態が生じてしまう。

## 質問②

- より公平・公正な選択をするため，村役場は住民にアンケートをとって笛を誰にあげるべきか聞くことにしました。
- 回答者には500円の商品券を送ってくれるそうです。  
ただし，他の村人の平均的な意見とズレていたら商品券はもらえません。
- 近所の人と話してみたら，次のように具体的な状況もわかりました。
  - Aはかなり貧乏で，客観的にみたらAに笛をあげるべきに見える。
  - 私たち大人はみなBのことが好きでBを贖買している。
  - 私たち大人はみな利己的（わがまま）であり，お互いがそのことを知っている。

■あなた（村の住民）は、このアンケートに対して  
どうしますか？

Aさん

Bさん

Cさん

返信しない

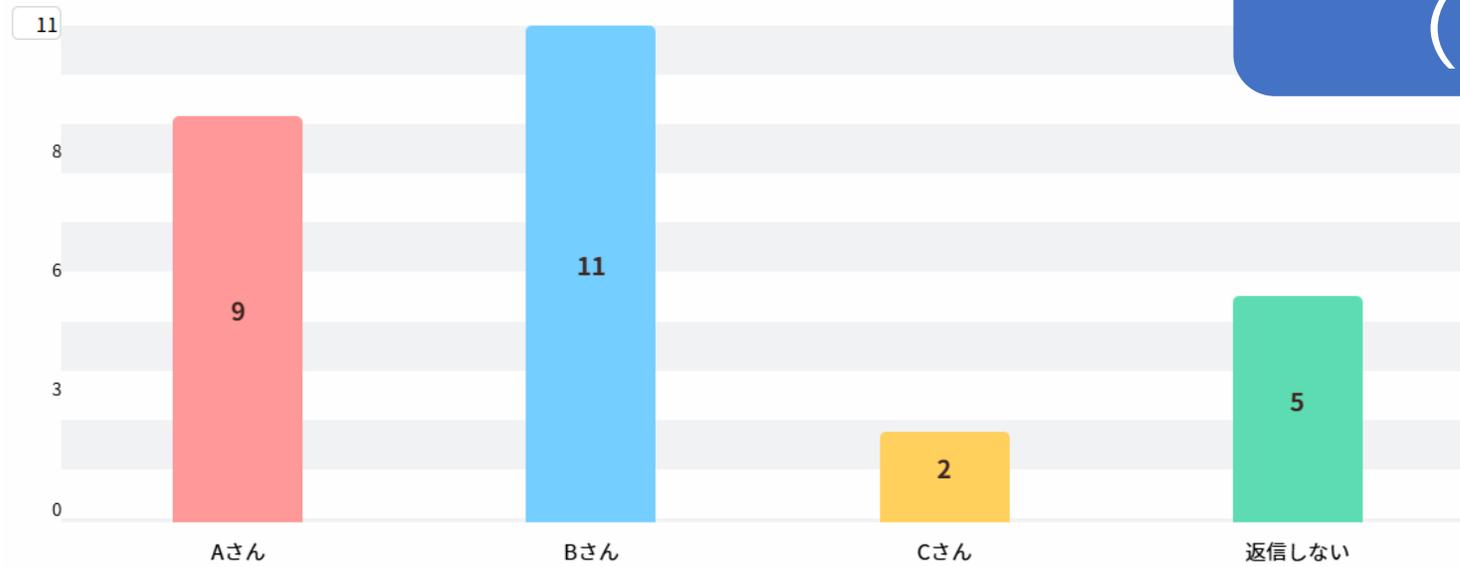
【理由】

|  |
|--|
|  |
|--|

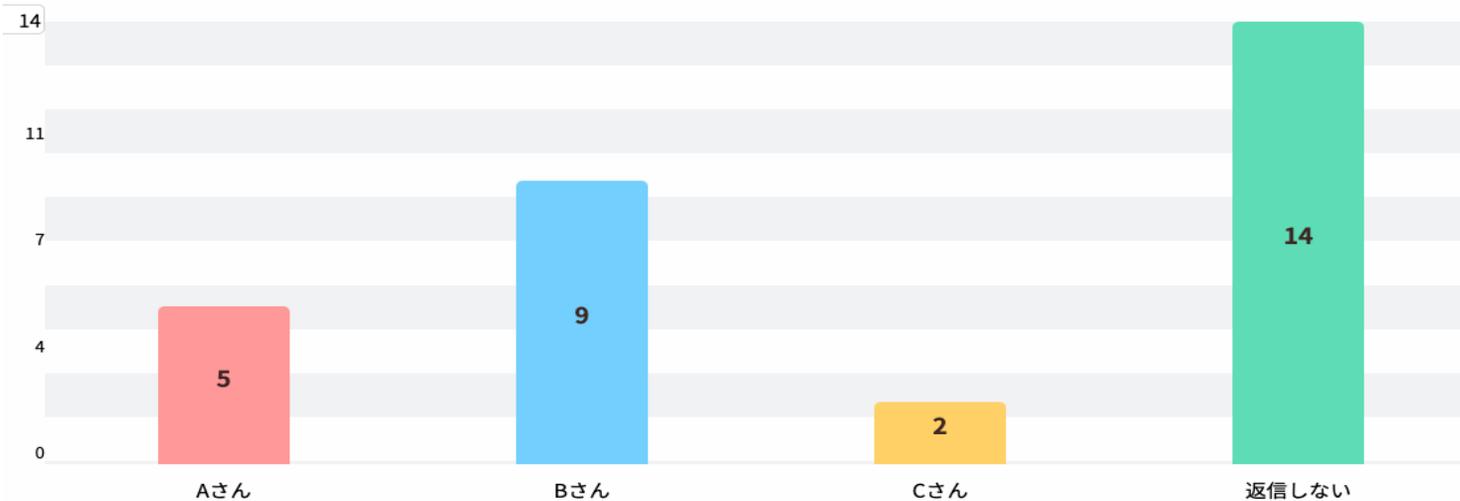
# 生徒が選んだのは・・・

だいたい予想通り  
(Bが多い)

1組



2組



# 生徒の意見

|   |  |
|---|--|
| A | <ul style="list-style-type: none"><li>・かなり貧乏ならAにあげるべき。</li><li>・客観的に見たときに最もあげるべきだと判断しているならあげるべきだと感じたから。</li></ul>  |
| B | <ul style="list-style-type: none"><li>・みんなが贖買しているなら合わせたほうがお金をもらえるから。</li><li>・みんなにあわせて、商品券をもらえるから。</li><li>・周りの大人達がBのことを贖買しているから他の村人の平均的な意見と同じになり500円券がもらえるかもしれないから。</li><li>・大人はわがままでBさんが好きだからBさんに気に入られたい。また大人は周りの人もBさんのことが好きというのを知っているから商品券がもらえる可能性が一番高いBさんに渡す選択肢を大人は選ぶと思う</li></ul> |
| C | <ul style="list-style-type: none"><li>・Cについて触れられてないから</li></ul>  |

# 生徒の意見（返信しない）

- 500円の商品券なんていないから
- 500円の商品券じゃ額が低すぎる。みんなBさんを選択すると思うからお金のために回答するのは違うと思うから。
- もらえなかったとき嫌だから。商品券配ってないでAにあげて豊かな暮らしを作ってあげるべき
- 500円の商品券が必ずもらえるわけでもないし、わがままな人たちと相手を考えて意見を出したり、まとめたりするのは難しいから。
- 皆Bのことが好きで鼻負していたり平均的な意見と被っていたら500円の商品券をあげたりと公平で公正なアンケートではないから。
- 大人は皆利己的だということはみんな商品券のために多くの人を選ぶ回答を狙おうとする。つまり、大人はみんな鼻負をしているBに投票をするはずである。鼻負をしている人に投票するのはつまらないし、自分の利益のためだけにAのような人が大変な思いをするのは可愛そうだと思う。私がAを投票したとしてもBさんにあげるという結果は変わらないと思う。それならば返信をするべきではないと考えた

## 松島齊『サステナビリティの経済哲学』（p.31～32）

では今度は、最低限の人間性を保持しているコミュニティを考えてみよう。……住民の認識の中では、ある住民が倫理的な動機を……少しはもっている可能性を、完全には否定できないと仮定しよう。……意見の求め方を少し変えて、A, B, Cの誰がふさわしいのかを問うのではなく、A, B, Cの各々について「どの程度」ふさわしいかを尋ねるとしよう。……今度は、利己的な住民といえども、……多少なりともAにバイアスのかかった意見を表明することが、純粹に利己的であっても最適な意見表明になる。……こうして、問題解決の手続きを上手に設定するならば、非人間的なコミュニティでない限り、「センの笛」問題を住民だけで解決することが可能になる。

# 質問③

## ■商品券のルールは同じ

（他の村人の平均的な意見とズレていなければ500円の商品券）。

## ■回答方法は変更：だれがふさわしいかではなく、

それぞれどの程度ふさわしいかを答える。

## ■具体的な状況も一部分が変わった。

□Aはかなり貧乏で、客観的にみたらAに笛をあげるべきに見える。

□私は利己的である（Bを贖済したいと思っている）。

□他人も利己的かどうかはわからない（他人は利他的かもしれない）。

■あなた（村の住民）は，このアンケートに対してどうしますか？

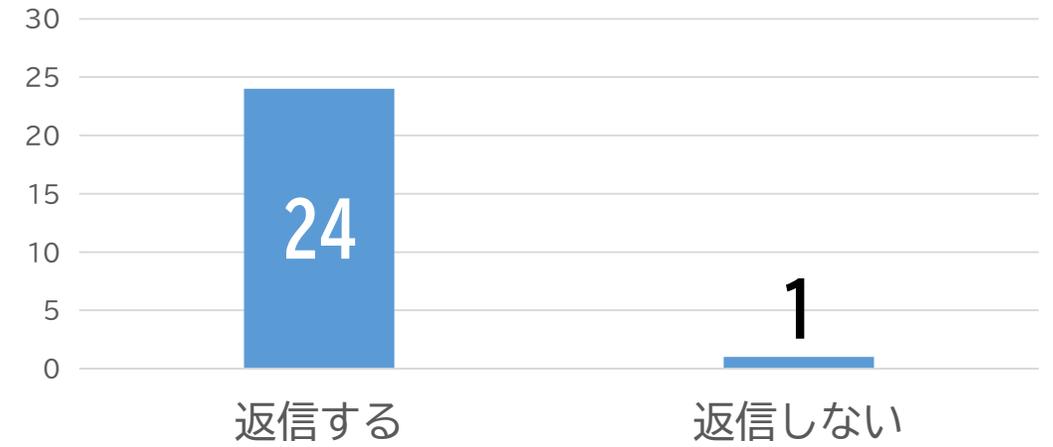
返信する → Aさんは10段階中\_\_\_\_\_くらいふさわしい。  
Bさんは10段階中\_\_\_\_\_くらいふさわしい。  
Cさんは10段階中\_\_\_\_\_くらいふさわしい。

返信しない

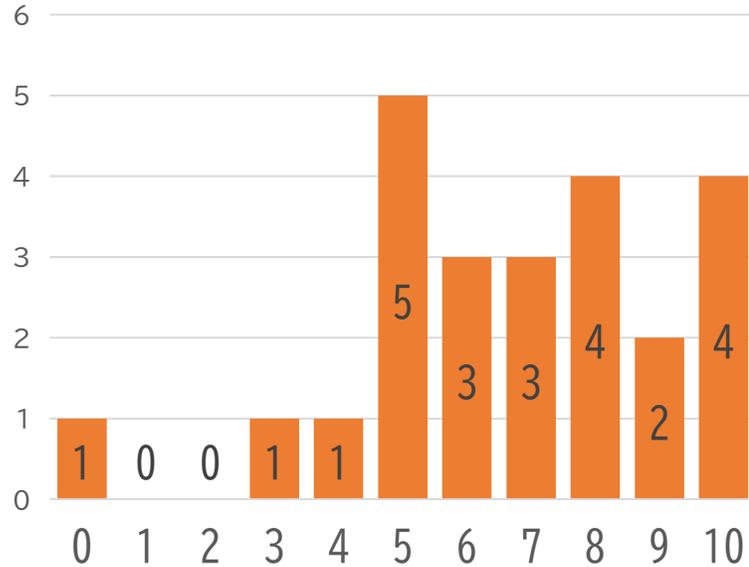
【理由】

# 生徒が選んだのは・・・

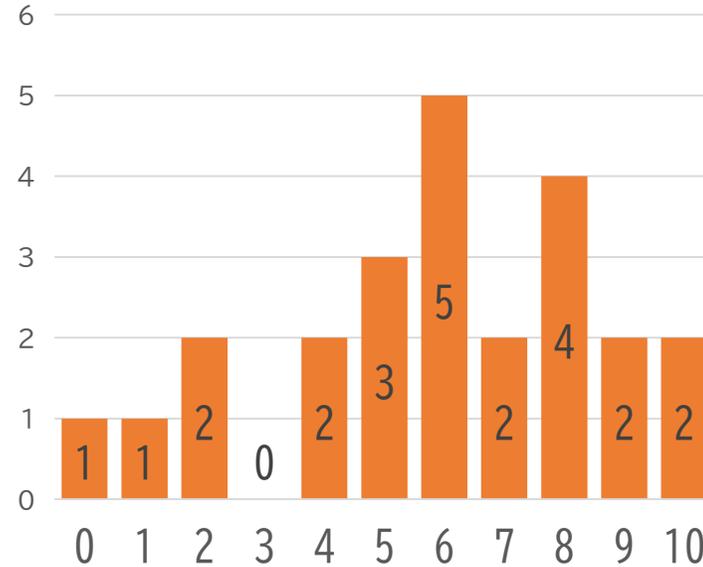
1組



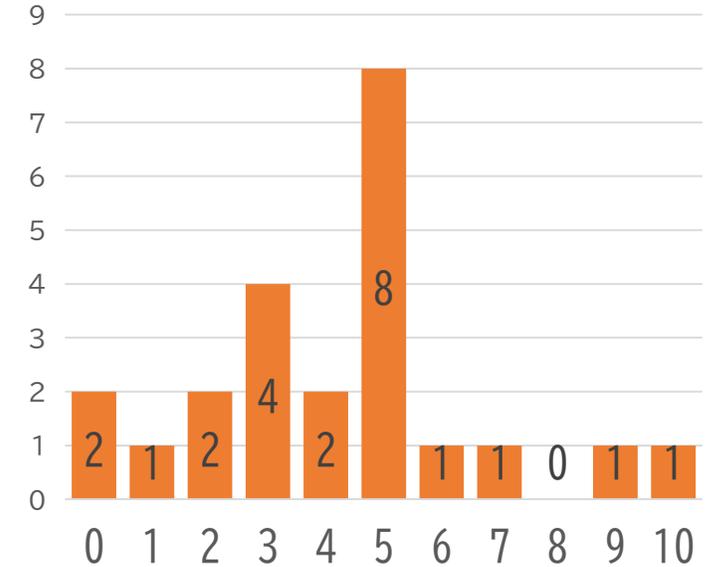
A



B

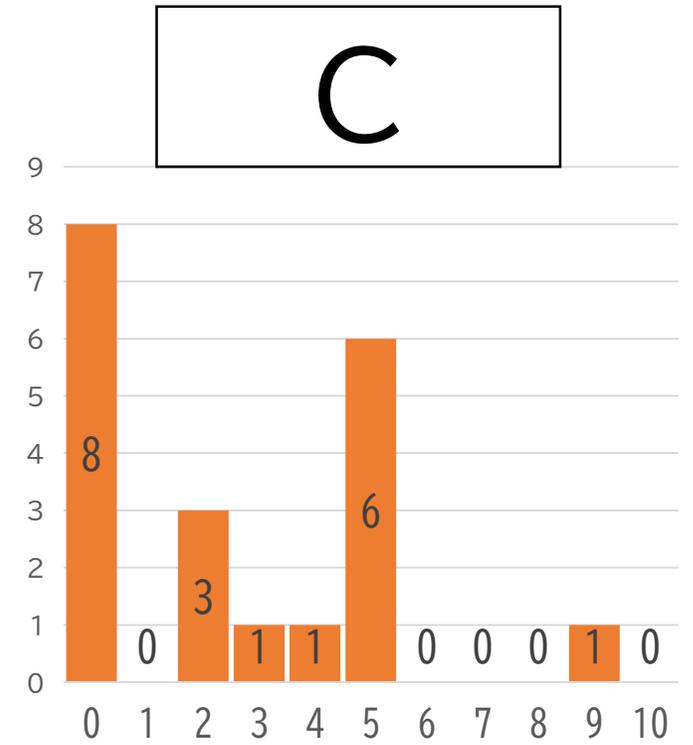
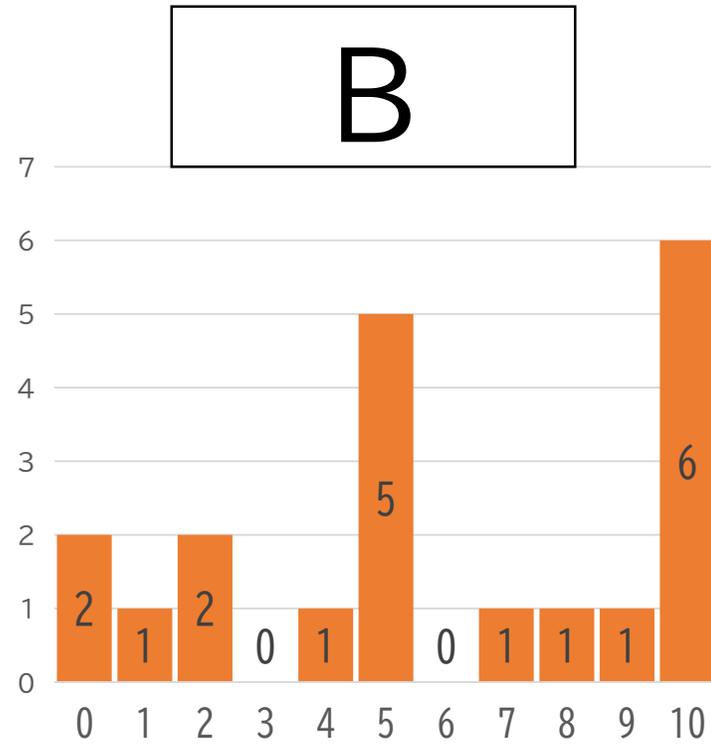
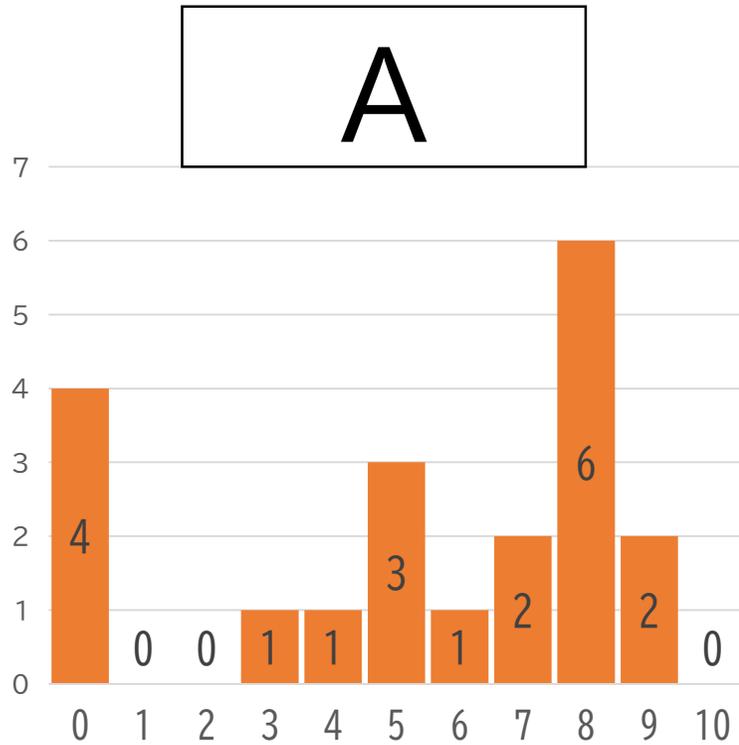
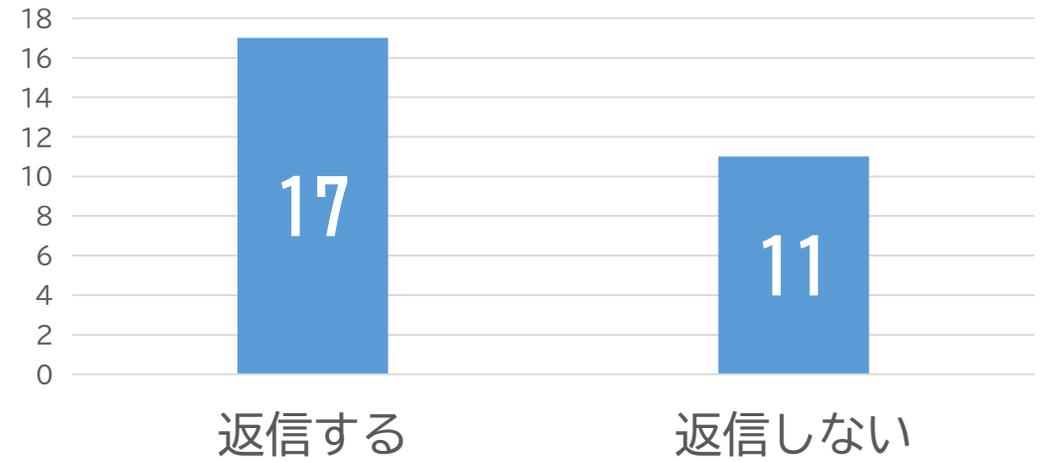


C



# 生徒が選んだのは・・・

2組



# 生徒の意見

|                          |   |
|--------------------------|---|
| <p>返信する</p> <p>評価の理由</p> | <ul style="list-style-type: none"><li>・10にすると怪しまれるから</li><li>・他人が利己的かどうか分からないのなら、自分の意見をはっきり主張しても、平等なアンケート結果になる可能性が高いと考えたから。</li><li>・Bを最良したいけど今回は自分の周りが利己的とは限らないから商品券がもらえる可能性が低い。だったら最良したい気持ちを抑えて返信しないほうがいいと感じた。</li><li>・客観的に見るとAにあげたほうが良さそうなので6<br/>Bは最良しているのでAより高めの8<br/>Cは客観的にも最良目にも微妙なので中間の5</li></ul> |
| <p>返信しない</p>             | <ul style="list-style-type: none"><li>・数字をつけるのはめんどくさいと思ったから</li><li>・最良したい気持ちはあるけど、誰がどれくらいふさわしいかを考えて回答するのがめんどくさい。</li></ul>   |

# 村のストーリーを発展させる

- そもそも、笛が1本しかないことが問題？  
→ 笛を量産するようになれば解決??

- サステナブルな社会のために考慮すべきことを考えさせる。  
ex. 外部不経済の問題
- 生徒にとって身近な現実の社会問題に近づけていく。

# 奨学金への置き換え

- 村の発展のためには、若者が教育を受けて新しい産業を育てる必要があるという結論になりました。
- あなたは村のために大人たちに呼びかけて奨学金制度をつくりました。10人が一人1万円ずつ出し合って10万円の基金ができました。10万円の奨学金を誰にあげるかを決めます。

Aさん：一番貧乏

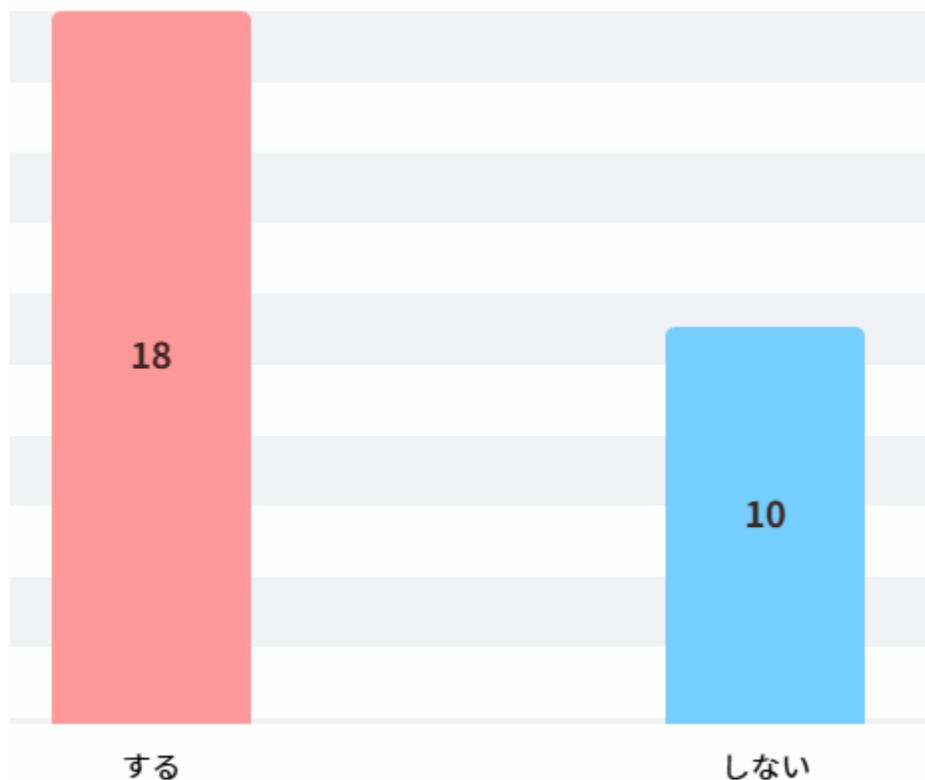
Bさん：成績が良い

Cさん：将来、返済を約束

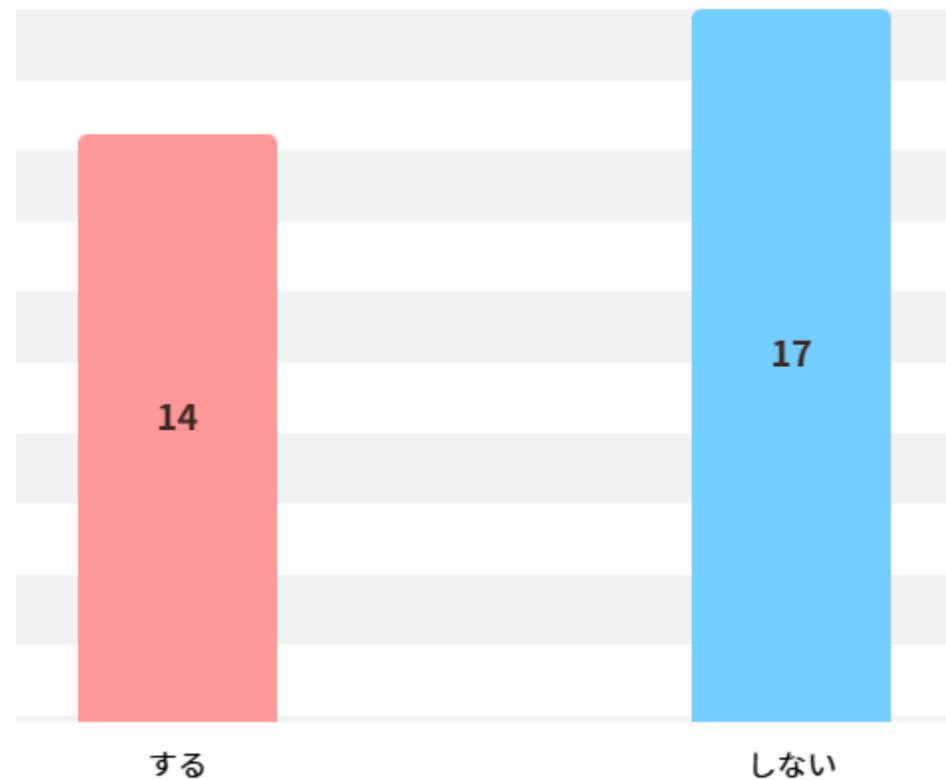
- この決定をするために、ほかにどんな詳しい状況がわかるとよいか？
- あなたが呼びかけられた側であるとしたら、この奨学金制度のために1万円を拠出するか。理由は？
- 奨学金の制度を充実させるためには、社会全体としてどのような文化を築く必要があるか。
- 誰もが十分な教育を受けられる社会をつくるには、どのような制度をつくるとよいか。
- 誰もが十分な教育を受けられる社会をつくるために、あなた自身はどんな行動ができるか。

■あなたが呼びかけられた側であるとしたら、この奨学金制度のために1万円を拠出するか。理由は？

1組



2組



# 生徒の意見

|     |  |
|-----|--|
| する  | <ul style="list-style-type: none"><li>・一万円ぐらい大したことがないからあげる</li><li>・自分の子供などにも奨学金制度は役に立つと思ったから</li><li>・1万円を出すことで将来村が発展して自分が得をすると思うから</li><li>・村の発展の役に立つなら1万円を拠出したい</li><li>・発展のためなら仕方がない。納税、投資感覚でお金を出すと思います。</li><li>・未来の町を発展させるために託すことが大事だと思ったから</li></ul>              |
| しない | <ul style="list-style-type: none"><li>・寄付してから、お礼とか倍で返ってくるんだったら考える。</li><li>・貸した人から必ず返ってくる確証がないから</li><li>・若者が教育を受けて、基金を出した人へのメリットがわからないから。</li><li>・お金を渡したくない</li><li>・お金を出したくないから。自分に関係ないから。</li><li>・自分のお金でやるべき</li><li>・詐欺かもしれないから。</li><li>・もらった人しか得しないから。</li></ul> |

■誰もが十分な教育を受けられる社会をつくるために、  
あなた自身はどんな行動ができるか。

- ・まずは進学先での学習を深めること。
- ・税金を収める。
- ・選挙に行き、自分自身の意見を言う。
- ・教育を受けられない人たちに募金をする
- ・寄付やボランティア活動を行う。
- ・ボランティアとして無償で勉強を教える

# 身近な話題からグローバルな課題へ

■村は発展し、奨学金で進学した子供も立派な大人になった。彼らは進学先で、自分の村のことだけでなくグローバルな課題についても学んで卒業した。

■あなたは、このようにして大人になったうちの一人である。今では立派に働いて稼いでいる。自分の手元には10万円の余裕資金がある。これをあなたならばどう使うか？

A：貧しい国などを支援するNPO団体（ユニセフ、国境なき医師団など）への募金

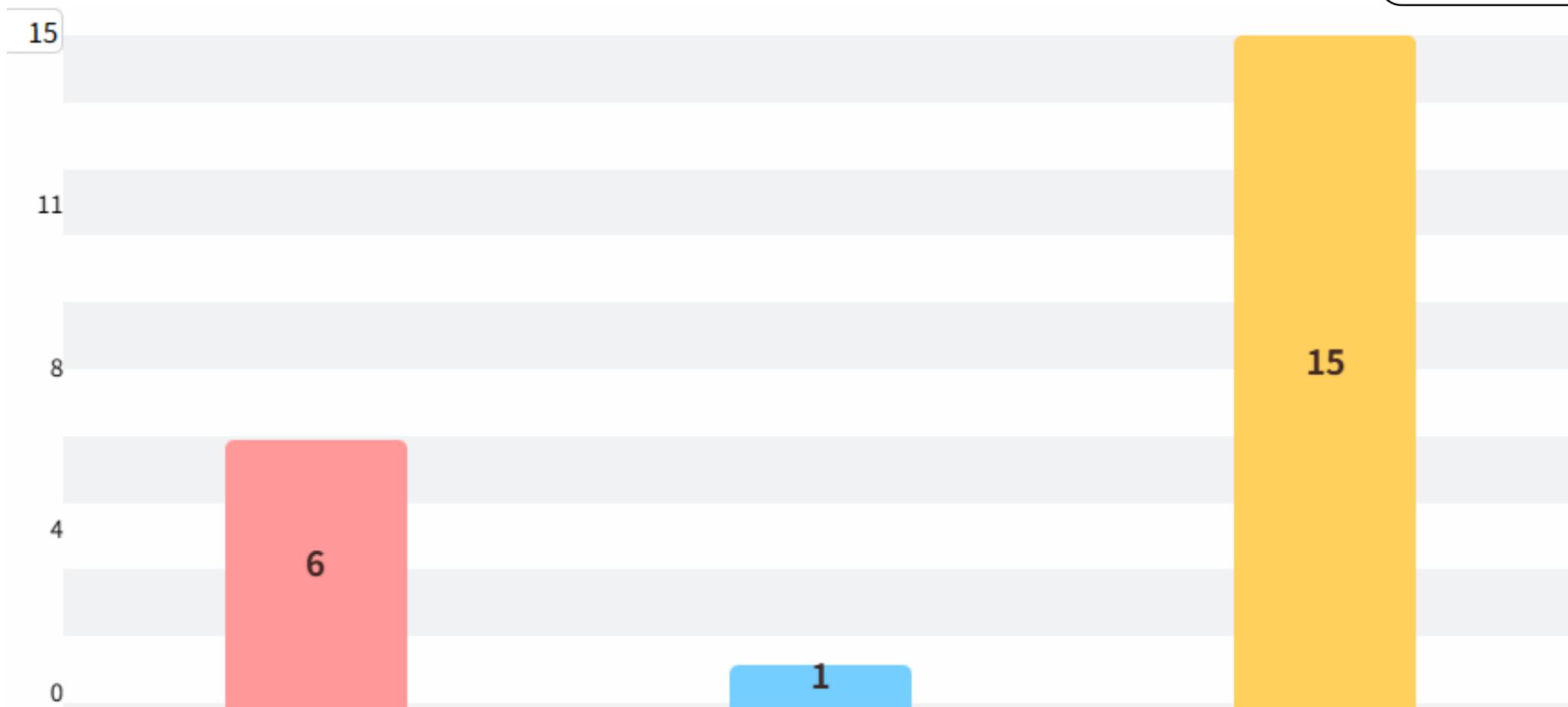
B：CSR（企業の社会的責任）を積極的に推進している企業への投資

C：最も利益を出して株主還元している企業への投資

D：その他（ ）

# 生徒の回答

1組



A：貧しい国などを支援するNPO団体  
（ユニセフ，国境なき医師団など）  
への募金

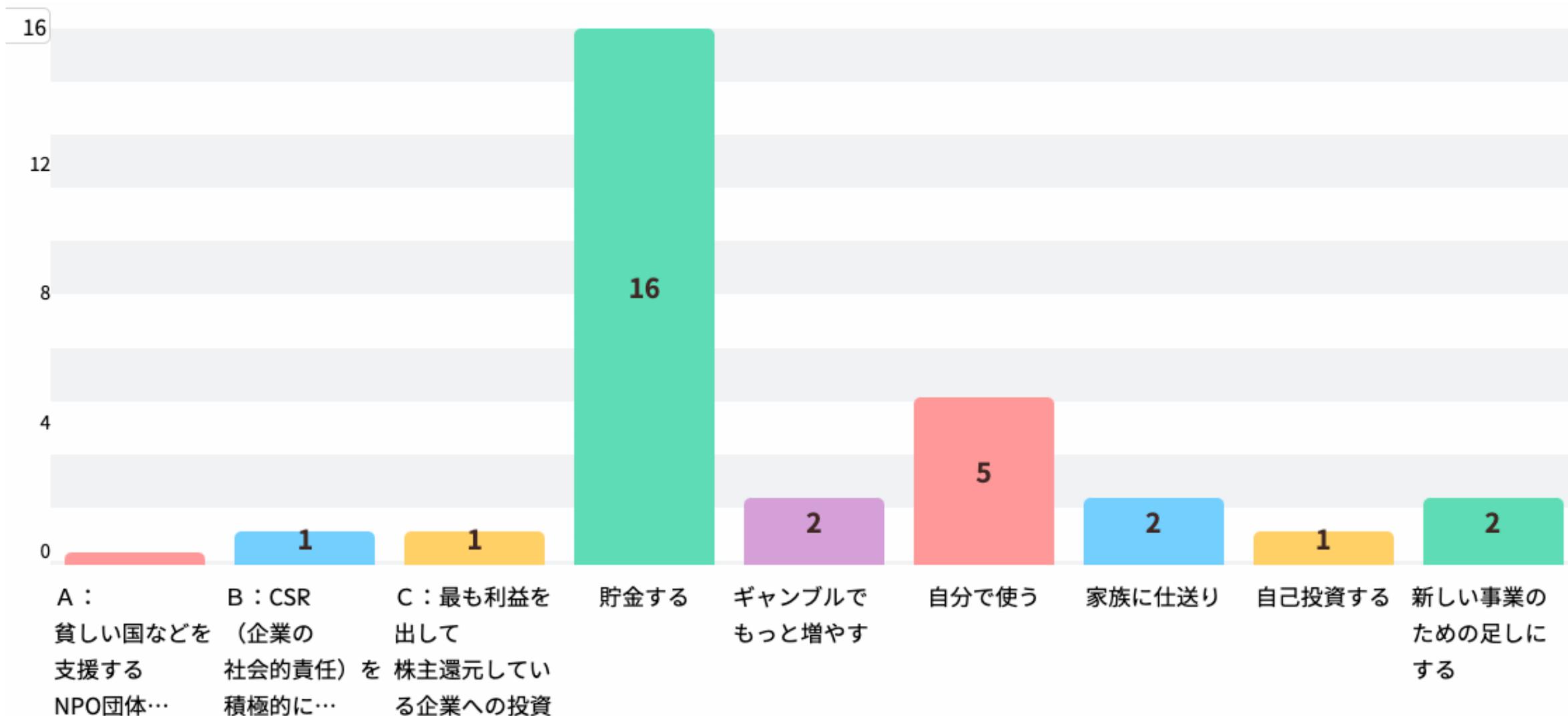
B：CSR（企業の社会的責任）を  
積極的に推進している企業への投資

C：最も利益を出して  
株主還元している企業への投資

- ・自分が支援してもらった側だから他の人にも支援して助けてあげてあげべきだと思ったから。
  - ・借りた恩を忘れず形に残る感じで貢献したい
  - ・衣食住が当たり前ではない国もあるので少しでも役に立つことができると嬉しく思うから
- 
- ・Cで増やしてAに募金をする
  - ・さらに多くの資金がほしいから
  - ・募金はプラスになることはないけど、投資ならプラスになりうるから。
  - ・更に多くの資金を増やし、増やしたお金で募金などをするため。
  - ・募金するにしてもCSR推進企業に投資するにしても10万では心もとないので、まずは資金を増やすべきだと考えるから。

# 生徒の回答

2組



# 生徒の意見

2組

- ・ 自分に使いたいから
- ・ 自分が稼いだものだから
- ・ 生きていくのにはお金がかかるから、いざという時の為に貯金する。
- ・ 今余裕なだけで、急に難病にかかったり火事にあったりとかが絶対に起きませんとは言えないから。資金がもうちょっと増えたら他の選択もありかなと思った。
- ・ お他人様よりまずは家族に感謝かな、と思ったから。
- ・ 団体に寄付したところで、貧困で苦しんでいる人に届くとは限らない。なら自分の身近な人を助けてあげたい。

# まとめ・課題

- 高校生はリバタリアンが多い？
- でも，利他心がないわけではない。
- 自分自身の将来への不安があると，他者への寄付はなかなかできない。
- 質問や制度の設計（金額や状況の想定）によって答えは変わってくるかもしれない。
- 架空の村では利他性を発揮しても，いざ現実の自分に置き換えるとなかなか厳しい。